

データ利活用による菰野町MaaS「おでかけこもの」機能高度化事業 ～公共交通で気軽におでかけしたくなるまちを目指して～

菰野町、NTTコミュニケーションズ

目的：MaaSの機能高度化により公共交通の利用促進

- 自治体職員が活用できるデータ分析環境の構築により、データに基づいた公共交通の運行改善施策の検討を図る。
- 「おでかけこもの」の機能向上や、便利なデジタルチケットにより、来訪者への情報提供の改善や町民の公共交通利用への転換を図る。
- スマホ教室を通じたMaaSアプリの利用周知や使用感のヒアリングにより、自治体職員の窓口対応の削減やアプリの機能改善を図る。

事業内容：MaaSのシステム改修及び改修後の利用周知

【① データ分析に基づく移動実態の把握による公共交通の運行】

- コミュニティバス、AIオンデマンド乗合交通のODデータ及び属性情報の取得とOD・属性毎の移動実態の詳細分析を行い、コミュニティバスの運行計画の検討に活用した。
- データのクレンジング方法の整備など、職員が自ら簡単にTableauを活用できる分析環境を構築した。

【② よく使う人も初めての人もより便利な「おでかけこもの」の実現】

- 利用者の属性情報を取得し、属性のニーズに合わせた公共交通関連情報、イベント情報等を提供し、高齢者や初めて利用される方でもより分かりやすく・使いやすいUI/UXの向上を行った。
- コミュバス定期券・学生1DAYPASSのデジタルチケットを販売した。

【③ スマホ教室による利用周知や使用感をヒアリング】

- 携帯ショップと連携したスマホ教室を実施し、「おでかけこもの」の利用方法の周知・公共交通利用促進を行った。

効果

- 課題：高齢者・通学利用者・来訪者の移動の手段確保(MaaSアプリが使いやすい・乗車券が紙のみの販売等)や公共交通の持続可能性の確保(データ分析やMaaSアプリ利用説明対応による自治体職員の負担等)
- 効果：MaaSアプリへのアクセス数月平均約6,000件の増加や職員稼働の約30時間の削減効果を得た。一方で、運行効率改善による公共交通の利用者やデジタルチケットの販売数は伸び悩んだ結果となった。

【実施エリア】



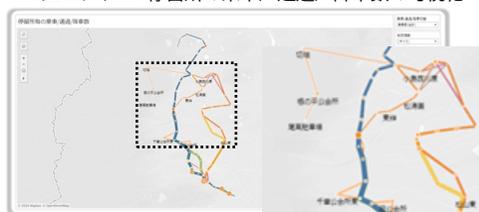
のりあいタクシー=AIオンデマンド乗合交通

【本事業の取組の全体像】



【Tableauの画面】

コミュニティバス停留所の乗車/通過/降車数の可視化



【出張スマホ教室の様子】

